




熊本市代表!4年生道德の授業

昨日5日(木)の5時間目に、4年1組で道德の研究授業が行われました。これは、昨年度の「わくわく通信177号」でも紹介した、熊本市の学びわくわく授業研究会の一環で行われています。熊本市の先生たちの指導力の向上を図る目的で開催されています。昨日は、本校の道德教育の取り組みの一環を、熊本市の先生方へ提案することができました。授業者は4年1組担任の長谷川先生で、教科書の中の「つくればいいでしょう」というお話でした。

あらすじ:「わたし」は4年生になって自分の長所と短所について考えていた。短所は、いろいろ見つかるが、長所は全く見つからない。友達からは長所を言ってもらったが、それで満足する気持ちにはなれない。お母さんからは「見つからなければ、つくればいいでしょ。」と言われた。悩んでいると愛子さんが「5年生になったら学校対抗の駅伝大会に出場できるように、わたしと一緒に長距離を練習しない?」と声をかけてきた。愛子さんとの練習は3ヶ月以上続いたが、やめずにがんばった。お母さんが「つくればいいでしょ。」と言っていたことも、わかってきたように思えてきた。

今回の授業のめあては、「『よいところに気付く』ためにはどのような心が大切だろうか?」というものです。担任から「母が言った『つくればいいでしょう』がわたしにはどうわかってきたの?」と問いを投げかけると、子供たちは「やり続けてきたから、長所が分かる。」「友達と一緒に伸ばしたから気付いた。」などそれぞれ、わたしが長所に気付き始めた理由を考えていきました。そして、「 帯西レッド」の心「よいところをのばす」に向かって子供たちの心を耕しながら、「『よいところに気付く』ためにはどのような心が大切だろうか?」について一人一人が自分事として考えていきました。子供たちは、「嫌でも辞めずに続けること。」「自分も周りも喜ぶ気持ち。お母さんに褒めてもらえる、もっとやる気になる。」「あきらめない心。努力した方が達成感がある。」など意見を出し合って、道德的価値の本質に近付いていく授業となりました。

今回の道德の授業について、子供たちが帰った後に、熊本市の先生方と、本校職員で授業研究会を行いました。参観者一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。講師の先生も「子供の交流する時間が充実している。ICT活用によって、共有化しやすい。また、道德教育が学校全体で支えられている。『心のパズル』が学びの整理になっており、帯西では、道德科の授業のみならず、他教科や生活と子供たちの意識が繋がっている。それが道德科の学びを促進している。」と述べられていました。本校で推進している道德教育が評価され、これからも全職員で、工夫改善を加えながら、自信をもって取り組んでいこうと思います。

今回も、子供たちと職員とで帯西レッドの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は4年部でも共通実践を行い、4年生全員の心が育ちました。4年1組の皆さん、貴重な道德の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

